組合だより

第１４２号
1月 27日
２０１１年

発行所 岡山大学職員組合
〒700-8530 岡山市津島中 2-1-1
電　　話 086-252-1111（代）
内線）7168
直通・ＦＡＸ086-252-4148

岡山大学職員組合ホームページ http://hb4.seikyou.ne.jp./home/ODUnion/メールアドレス ODUnion@mb4.seikyou.ne.jp
（組合だよりはホームページにカラーで掲載しています）

2011年 年頭挨拶

「平等感のある職場環境を目指して」

執行委員長　山川純次

みなさま，あけましておめでとうございます。昨年もみなさまのお蔭をもちまして，労働組合としての成果をいくつか上げることが出来ました。個別の内容につきましては他の稿に譲りますが，本年もまた昨年同様の成果を挙げられますよう，組合への愛顧をよろしくお願いいたします。

さて先日，妻と北欧にオーロラ見物に出かけてまいりました。Northan Lights あるいは Another Lights とも呼ばれる自然現象で，北欧諸国の人々はまるで月明かりのようにオーロラとともに生活しているそうです。平均すると三日に一度は出現しているようですが，強烈に光ることは稀で，上空の雲よりさらに上に出現するために，1 週間程度の滞在では肉眼観測できるのは運次第との事前説明でした。ところが私たちは滞在中の計 6 回の観測中，4 回も肉眼観測できました。しかもそのうち 3 回はかなり明るくそしてカーテンの様に揺れるオーロラでした。これにはオーロラ観測ツアーの経験豊富なツアーコンダクター氏も「こんなに強運なツアーは初めてだ」と驚いていました。

オーロラツアーに参加する方々というのは例外なく大変な勉強家でいらっしゃって，「オーロラベルト」であるとか「太陽活動サイクル」であるとか「太陽風速度」であるとか，玄人裸足の情報を仕入れて参加していらっしゃいました。そういう方々から何か質問され，もし正しく答えられなかったら岡山大学の恥です。そのため私は地球科学者であるという素性を伏せて，それでもオーロラをカメラに収めるべく，通常のツアー参加者は持たないような重装備，数 kg のアルミ合金製三脚，超広角レンズ，高感度フィルムを持参して撮影に望みました。こちらも運に恵まれて，何枚かはそれなりの画像を収めることが出来ました。

でも，やはり 20 年以上の実験系科学者と教育者としての経験，そして近年の組合活動で培っている互助精神は抑えられませんでした。オーロラの発光は弱いので高感度に設定し，しっかりとした三脚に固定したカメラで長時間撮影する必要があるのですが，ツアー参加者のほとんどは手持ちで数秒の撮影。知識と技術の不足で，ツアーのためにわざわざ新調した最新型デジタルカメラの性能を発揮することが出来ず，目に映るオーロラがカメラに収められないという状況を前にして，私はもはや知らない振りは出来ません。機種ごとに少しずつ異なる設定メニューに戸惑いながらも設定指導を行い，代わるがわる私の三脚に固定して参加者のカメラにオーロラの画像を収めて行ったのでした。

すると，そこでもやはり，普段の講義と同じような状況になりました。横で私の様子を見ていた別のツアー参加者の方が，ご自身で工夫を行い，そして撮影に成功しました。撮影をアシストした参加者の方もさらに設定を進めて，より美しい画像の撮影に成功しました。状況を打開するための「要」を示せば，後はそれぞれが自分の力で進めるようになる，というのが私の学生に対する教育研究指導法の一つですが，それがその場でも功を奏したようでした。翌朝の朝食会場では参加者の

皆様が前夜のオーロラ画像が納められたデジカメとともに集合なさり，誰もが満足そうな笑顔で談義に花が咲きました。

この「誰もがオーロラを観測し記録することが出来た」ことによる公平感こそが，ツアー内に感情的な軋轢を生むことが無いのだとコンダクターの方に教わりました。これは，なかなか重要な考え方だと休暇旅行中にも関わらず思いました。岡山大学の現在の労働環境はどうでしょう。モチベーションの低下を防ぐための，インセンティブによるリソース傾斜配分も結構ですが，度が過ぎると不公平感を誘発してしまい，やがては大学全体がうまく行かなくなるかもしれません。現状はそうではないと見る向きもあるでしょうけれど，少なくとも組合に寄せられる組合員の皆様からの声の内容からは，その種の不満がすでに発生していることが推察されます。岡山大学の将来のために，本年もより一層に組合活動を活性化させるべきであると，決意を新たにしているところです。

さて我が家では,「オーロラを見ることが出来た人は宝くじの上等当選確率が高くなる」という都市伝説に興味を持って昨年末に購入してみましたが，結果は…少なくとも私の，オーロラを観測できた強運は，執行委員長職である以上，やはり組合のために使うべきなのかもしれません。本年もよろしくお願いいたします。

第21回全大教医科系大学教職員懇談会に参加して

岡田順子

平成22年11月13日・14日と2日間にわたって開催された、第21回全大教医科系大学教職員懇談会に参加させていただきました。「安全・安心な医療、安心して働き続けられる大学病院を」をテーマに群馬大学にて開催された医大懇では、そのテーマに沿い、全体集会、分科会が開催されました。

全体集会では、前慈恵医科大学附属病院 看護部長・副院長 大水 美名子氏が、「生き生きと働くために～働きやすい職場環境、良い医療の実践から～」と題し、慈恵医科大学附属病院で取り入れた「Fish」哲学の講演をされました。私たちは、人生の中の多くの時間を仕事に費やしており、この仕事の時間が楽しいものでなくてはならず、また、仕事によって私たち自身がエネルギーを得るものでなければならないとの考えに立ち、働きやすい環境を作ること、生き生きと働くことができる環境を作ることが、良い医療・生産性の向上につながるとしています。もともとこの概念は、アメリカのある魚市場で働いている人たちが、『1日のうち長時間を仕事場で過ごす我々、仕事場へ行くための準備、さらに仕事からの治癒;なぜ、仕事場そのものを楽しく、より良い所にできないものだろうか?より良い仕事場で働き、これが我々の生活の素晴らしさにつなげていけないものなのか?』と考え、そして自分たちの魚市場を世界一にしようと始めたのが「Fish」の始まりです。そして、「Fish」を始めたこの魚市場の人々は非常に活気に溢れ、生き生きと働いており、魚市場を多くの人々が見学に来るようになり、世界一の魚市場と言われるまでになり、アメリカのテキサス州・プロビデンス病院がこの「Fish」の概念を、取り入れ、組織が活性化し、業績が上がったとのことです。そして、『青戸事件』で、不安・混乱・自信喪失に陥っていた慈恵医科大学附属病院では、その効果として、患者は増えたが、「忙しがらなくなった」「仕事が楽しくなった」「患者さんに喜ばれた」「うれしくなった」「みんなが団結した」「人間関係がとてもよくなった」を具体的な声として挙げ、実際に、退職率は16%から12.5%へ減少、新人定着率は97.5%という調査結果が挙げられました。病院以外の企業でも、この「Fish」を取り入れている会社はあり、自分たちが楽しく働ける職場を自分たちで作り、結果として業績を上げていっているそうです。講演の中では、自分たちが今、どのような態度で仕事をしているのか、自分には何ができるのかを考えさせる場面もあり、実例を挙げながら「Fish」を学ぶことができました。講演をされている大水氏自身が非常にエネルギーに溢れ、生き生きとしている印象を受け、講演を聞いていた自分自身もこんな風に働いていきたいと思いました。非常に素晴らしい講演でしたので、つたない私の報告ではなく、是非1度岡山大学で講演していただき、職員の皆さんに聞いていただきたいと思いました。

分科会では、私は第3分科会「09全大教看護師アンケートから安全・安心の医療を考える」に参加しました。全国の大学病院で行われたアンケート結果を基に、問題点を挙げ、意見の交換を行いました。参加された各大学病院のアンケート結果は、多少の違いはあるものの、全国の大学病院が抱えている問

題点はだいたい一致していると思いました。

まず問題提起されたのは、就業前の超過勤務や、超過勤務の申請についてでした。超過勤務については、全時間申請し、また、大学側に申請した超過勤務時間が、自分の申請した時間と一致しているかを本人がチェックしているという大学がいくつかありました。また、金沢大学では、申請されていない超過勤務が多いことを問題とし、交渉を持ち、いわゆるサービス残業の実態を示したところ、大学側はサービス残業が自分たちの大学病院で行われているという認識がなかったとの返答を受け、改善案、超過勤務入力について取り決めをしていこうとしているとのことでした。山口大学では、1ヶ月に45時間以上の超過勤務をした際には、労働衛生係が申請を行い、超過勤務として支払われるよう動いているとのことでした。また、就業前の超過勤務についても、他大学でも取り組みがなされており、点滴・注射の準備や採血等の業務に関しては、可能な限り、業務内に行えるように時間を調節しているとのことでした。また、業務前に行われる情報収集については、意見の分かれるところでもありました。しかし、就業前の業務は職員にとって負担となっており、職員全員が、どうすれば時間管理ができるかを意思統一し、業務内に行えることは調節し、何を就業前の超過勤務とするかを決め、なるべく就業前の業務をなくすようにしていく改善案が必要なのではないかとのことでした。勤務時間後の超過勤務は申請しているという大学病院がほとんどでしたが、業務前の超過勤務については、申請していない大学病院がほとんどでした。しかし、意見の中には、組合が強い大学病院では、就業前の超過勤務についても申請しているとのことでした。

次に、二交代制の夜勤についての問題が挙げられました。病院が7対1の体制となり、職員が増えているにもかかわらず、夜勤の回数が減らず、また、夜勤の間の休憩時間が確保されていないことが問題とされました。7対1体制がとられているにもかかわらず、夜勤回数が減らないのは、この7対1が、病棟単位ではなく、病院単位であることが大元にあるという意見がでました。また、二交代では、 17時間という長時間労働の中、休憩時間が確保されておらず、休憩を取ることが出来ずに夜勤を過ごす職員もいるとのことで、二交代制の夜勤の休憩時間の確保が急務であるとされました。また、この問題点の延長として、二交代と三交代についての論議もなされました。組合としては、1日8時間労働という立場で、三交代を基本としていますが、意見の中には、働いている職員の中には「二交代のほうが良い」との意見があることも事実であるため、「こうでなくてはならない」とするのではなく、職員が働きやすい労働体制をとることが必要なのではないかという意見もありました。

また、アンケート結果より、年休が消化できていないことを問題とし、各大学病院で年休消化のために様々な取り組みが紹介されました。神戸大学・金沢大学では「バースデー休日」が設けられ、誕生月に3日連日で年休がとれるものとしているそうです。また、琉球大学では「リフレッシュ休暇」として、本人が希望したときに、3日間、年休をとれるものとしているそうです。また、「お盆休暇」として2～ 3日間、年休を使える病院もあるとのことでした。さらに、「創立記念日休暇」として、1日、年休をとれるようにしている病院もあれば、その日は病院自体が休みとなる病院もあるそうです。年休が消化されていないことは、ほぼ全ての大学病院で問題とされており、各大学で独自に様々な取り組みをし、年休消化を計っていることがわかりました。これらを例に、私たちの岡山大学病院でも、年休消化できるように取り組んでいく必要があると思いました。

医大懇の１日目、２日目の約半日ずつ、この分科会で上述のことを主に討議をしました。アンケート結果より、看護師、医療技術職員の 95%以上が疲れている状態にあるという結果のでた、この困難な状況を打開すべくされている、各大学病院での取り組みが紹介されました。しかしながら、こうした取り組みの推進力となる組合員が、非常に少ないことも事実です。大学病院で働く私たち１人１人が、日頃働きながら感じていることに問題意識を持ち、アンケート結果で明らかとなった問題点を打開すべく、取り組みをしていく必要があると同時に、組合員の増員の重要性が感じられるものでした。

私は、今回初めて医大懇に参加させていただき、他の大学病院の組合員の方々の意見を聞き、話をし、非常に勉強になった２日間でした。また、討議だけでなく、交流懇親会では、「八木節」をみんなで踊り、伊香保の見事な紅葉を散策するなど、楽しい時間を過ごさせていただきました。私の都合で、子どもも同席させていただきましたが、岡山大学の組合の方にも、他大学の方々にも、大変温かく接していただき、非常に感謝いたしています。有意義な２日間を過ごさせていただき、本当に有り難うございました。

2010年度第一回組合活動説明会

(2010/12/9, 18:00-20:00, 組合事務所)

岡山大学職員組合では，その組合活動を紹介し，また新たな組合員の確保を図るために組合活動説明会を開催しました。

時は暮れの慌しさが日毎に増してきた12/9，なるべく多くの参加者を得るべく，時間は18:00からに設定し，組合事務所で開催しました。用意したものは組合活動紹介資料一式(新規組合員勧誘時に配布するものと同じ)，PCによるプレゼンテーションシステム(PC，LCD プロジェクタ，スピーカー，簡易スクリーンとは名ばかりの発泡スチロールの板)そして軽食です。軽食は昨年から組合も利用を始めたワインハウスに発注し，白，赤などを揃えました。開催前に何度か通知を重ねて行った結果，12名（中途参加者を含む）の参加をいただきました。

説明会では1)組合加入のメリットの紹介，2)組合への加入方法の説明，3)組合組織の解説，4)組合員のレクリエーション活動の紹介，5)今後の活動方針と予定の説明等を行いました。とはいうものの決して堅苦しい雰囲気ではなく，用意された軽食をつまみながらの説明でしたので，参加者からも気軽に質問が発せられていました。また参加者には特別に、先日発売した「学長との対話」が無料で配布されました。

途中，組合活動として今や重要なポジションを占める合唱団の活動が動画で紹介され好評を得ると同時に，合唱団メンバーに新たな目標ももたらされた様子でした。この動画は動画配信サイトへのアップロードが検討され始めましたので，近い将来，Webベースの組合活動紹介が行えるようになるかもしれません。なお当日は余興として海外旅行した組合員による北欧3か国(フィンランド、スウェーデン、ノルウェー)およびロンドンの様子が写真とともに報告されました。

組合では今後もこのような説明会を不定期に開催してゆこうと考えています。今回，都合が付かず参加を見送られた方も次回には是非参加を検討くださるよう，この場を借りてお願い申しあげます。　（山川純次）

投稿コーナー

★ふたご座流星群★　藤原貴生

毎年１２月１４日ごろには、ふたご座流星群の活動があり、このころ夜空を眺めるとたくさんの流星を見ることができます。昨年の１２月１４日、井原市の美星星空公園（旧水路観測所）において流星の写真撮影を行いました。連続撮影した写真を処理して動画にしたものをYouTubeにアップロードいたしましたので、興味のある方はどうぞご覧になってください。

http://www.youtube.com/watch?v=_nIbcGoPl_E

まず、１本目は午後６時～午前１時ごろまでの東の空の様子を約４分の動画にしたものです。最初のうちは、雲がたくさん流れていますが、徐々に晴れてきます。長い軌跡を描く光点は飛行機です。時間が経過するにつれて、ふたご座が画面中央を昇っていきます。

流星群の流星は、輻射点と呼ばれる空のある１点から放射状に飛ぶような経路で流れます。ふたご座流星群の輻射点は、ふたご座の２等星カストルのやや上側にあります。動画では、輻射点から放射状に流星が流れる様子を見ることができます。

http://www.youtube.com/watch?v=h_bHfZMz7Eg

２本目は午前１時頃から午前６時頃までの西の空の様子を約３分の動画にしたものです。月が沈んで空の条件が良くなったので、１本目よりもカメラの感度を上げて撮影しています。より暗い流星まで写るようになりますので、１本目より流星が多く撮影されています。時間が経過するにつれて、ふたご座が画面上部より地平線方向に沈んでいきます。

ふたご座流星群の活動のピークは午後８時ごろでしたが、その時間は月も明るく輻射点も低く流星を見るための条件が良くありません。月が沈み輻射点が高くなった夜半過ぎのほうが、実際たくさん流星を見ることができました。また、ふたご座流星群は、活動のピークを過ぎてから明るい流星の比率が高くなる傾向があり、１４日の深夜午前０～２時頃は明るい流星も多くたいへんにぎやかでした。午前２時を過ぎると若干流星の数が少なくなってきましたが,それでも明け方まで普段よりはずっとたくさんの流星が流れていました。

明け方４時頃少し雲がでてきました。明け方になると、人工衛星が見えるようになります。動画の後半、明け方の空を長い軌跡を描く光点は、ほとんどが人工衛星です。動画の最後のほうで、国際宇宙ステーションがひときわ明るい光跡を残して画面を下から上に移動していきます。

組合員各位：岡山大学職員組合が，大学法人化問題に，実践的にも理論的に取り組んできたことは ご承知のことと思います。昨年その一環として，岡山で発行されている雑誌『人権２１』で，「国立大学法人化と岡山大学」という特集が組まれ，組合から中富先生，小畑先生，榊原先生が執筆され，そこに千葉学長も特別に寄稿されました。法人化の陰と光，大学の自治からどのように評価されるか，岡山大学職員組合はどのように成長し対応していったのか，職場代表委員会と組合の関係などについて解説してありますので，組合員の皆さんに無料で配布させていただくことにしました。今後ともご理解宜しくお願い申し上げます。